

= 鼻出血 =

鼻出血は、ほとんど心配いらないもので、数分で止まります。しかし、何度も繰り返すときや、大量に出血したときには、受診して適切な処置を受け、原因を確かめておくことが必要です。

鼻血が出たら

鼻血が前から出てくる場合は圧迫止血（下図参照）を行います。

のどの方向に下がってくる血液は決して飲み込まないで舌で送り出し、ティッシュペーパーでふき取ってください。また、あお向けになると、のどに落ちてきた血液を飲み込み胃を刺激して嘔吐します。嘔吐するときに息張るのでさらに出血が多くなったり、再び出血することがあるのであお向けにはならないでください。

圧迫止血



うつむいた姿勢で小鼻を強くつまみ、5～10分そのままにする。また、口の中にたまった血液は、絶対に飲み込まないようにする。

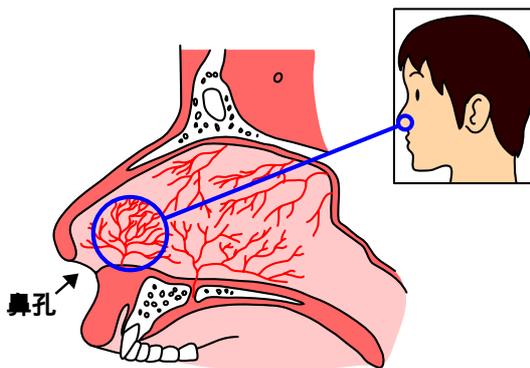
鼻出血の出血部位と原因

俗に「鼻血」と呼ばれる「鼻出血」は、さまざまな原因で起こります。

単純性鼻出血

はなを強くかんんだり、鼻をほじって傷つけたりなど、外的な刺激によって起こる出血です。鼻出血の8

キーゼルバツハ部位



鼻中隔（鼻腔を左右に隔てている中央の仕切り）の鼻粘膜の図。入り口近く部分がキーゼルバツハ部位で、毛細血管が集まっており、出血しやすい。

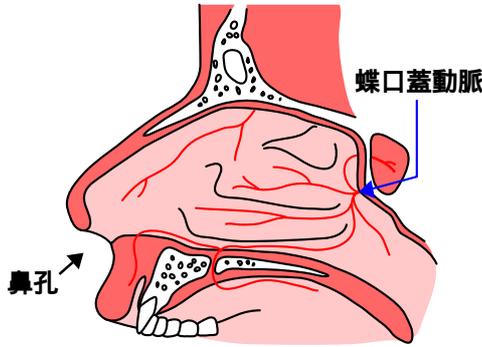
0%がこのタイプで、主に鼻の入り口付近1～2cmの「キーゼルバツハ部位」（左図参照）からの出血です。鼻の中は血管に富んでいますが、特にキーゼルバツハ部位は毛細血管が集中しており、しかも粘膜が薄いので、出血しやすいのです。

動脈性鼻出血

鼻腔の後ろのほうにある「蝶口蓋動脈」(左図参照)など、

太い動脈が切れて起こる鼻出血です。中高年で、特に高血圧の人に多く見られるもので、原因は明らかではありませんが、動脈硬化で血管壁がもろくなっているために起こるのではないかと考えられています。ここから出血すると、鼻からだけではなく、口からもあふれるほどに大量に出血します。

太い動脈からの出血



鼻腔の突きあたりの部分。蝶口蓋動脈と呼ばれる大血管がある。出血すると大量出血になり、止まりにくい。

症候性鼻出血

病気や薬の影響で起こる鼻出血をいいます。白血病や血友病などの血液の病気をはじめ、肝臓病や腎臓病、高血圧などがあると、鼻血がでることがあります。また、狭心症や心筋梗塞の患者さんでは、服用している「抗凝血剤」などの影響で、鼻血が出やすくなることもあります。

鼻血が5分以上たっても止まらなかつたり、頻繁に繰り返す時は、症候性鼻出血の疑いもあるので、一度耳鼻咽喉科で原因をきちんと調べてもらうことが大切です。また、動脈性鼻出血が疑われる時は、一刻も早く医療機関へ行きましょう。

鼻出血の治療

鼻血が出たときはあわてず、まず「圧迫止血」を行ってください。キゼルバツハ部位からの出血であれば、大体5〜10分以内に止まらなはずです。

いったんは止まっても、頻繁に繰り返す場合は、出血部位に硝酸銀という弱い酸を塗布したり、血管収縮剤

をしみこませた綿球かガーゼや、吸湿性スポンジを入れて止血します。それでも出血する場合は電気焼灼等を行います。いずれも外来で行え、鼻腔につめたガーゼ、タンポン等が完全にとれて止血するまでは1週間くらいかかることもあります。

また、鼻腔の深部からの出血は止血困難な場合があり、これらの止血法でも止まらない場合は、入院治療になることもあります。これも1週間前後の入院が必要になります。

詳しくは[こちら](#)へ